

田んぼアートが今年もスタート! ～農事組合法人たべた(川辺町田部田)～



6月28日、田んぼアートの田植えが川辺町田部田の田んぼでありました。空には今にも雨を降らしそうな雲がかかる中、地域子ども会や未就学児、その保護者などが参加し、80×50㍍の田んぼに一つ一つ苗を手作業で植えていきました。前日の準備で複雑な図柄の部分は植えてあり、当日は仕上げ作業となりました。泥まみれになって田植えをする子どもを見て

「こんなに集中してできると思わなかった」と嬉しそうにその様子を写真におさめる保護者もいました。場所は昨年と同じところで、やぐらの上から田んぼアートを見ることができます。ぜひ、稲の成長を見に来てください。



▲当日参加した方は、主催者も含め総勢200人近く。今年はさらに新しい取り組みを考え中とのこと。お楽しみに。



▲泥だらけになった体を水で洗い流した後は、農事組合法人たべた女性部手づくりの温かい豚汁とおにぎりをおいしくいただきました。

全国行政相談委員連合協議会長表彰 ～佐多善徳さん(知覧町永里)～

行政相談委員を10年間務めている佐多善徳さんが、5月20日の平成27年度行政相談委員全体会議で、公益社団法人全国行政相談委員連合協議会長表彰を受賞しました。これは、佐多さんが行政相談委員として住民の良き相談相手となり、公平で中立な立場で意見や要望を聞き、住民の福祉の向上と行政運営の改善に尽力され、その功績が認められたものです。

▼表彰を受けて嬉しそうなお茶子さんと受賞作品。その他の特別賞・特選の受賞者については、市ホームページをご覧ください。



▲佐多さんは「これまで、各行政機関の担当者が協力して迅速に対応していただき感謝しています。また今回の受賞を大変光栄に思っています」と話しました。

宮脇小1年 田之上茶子さん受賞 ～3,000点を超える作品の中から最高賞～

6月13日、南さつま市のふれあいかせだにおいて、「よい歯元気いっぱい」図画・ポスターコンクールの表彰式が行われました。南九州市からは、市内小・中学校合わせて1,696点の参加があり、南九州・南さつま市合わせて3,000点を超える作品の中から、小学校低学年の部において宮脇小1年の田之上茶子さんが、南薩歯科医師会会長賞を受賞しました。

心とボールをつないで全国大会へ ～ Little Stars 鹿児島県大会優勝～

6月27日～28日、ファミリーマートカップ第35回全国バレーボール小学生大会鹿児島県大会が開催され、参加した95チームの熱戦が繰り広げられました。南九州市から出場した7チームのなかで、



Little Starsが混合の部で見事優勝を果たし、8月に東京などで行われる全国大会への出場を勝ち取りました。

▲キャプテンの田原陸くんは「バレーボールができる喜びと感謝の気持ちを胸に大暴れしたい」と全国大会での活躍を誓いました。

安全のため石橋清掃 ～地元「桑和会」がツタを除去～

6月14日、桑水流自治会（川辺地域）の旧木場田橋において、橋全体に覆い茂ったツタの除去作業が行われました。これはツタの根によって石橋の安全が損なわれないようにと地元の桑和会



（栞木貴幸会長ほか18人）が計画、あいにくの天候でしたが、3時間半かけてツタを除去していきました。

▲桑和会では平成11年にもツタの除去作業を行っています。（左下は清掃後の石橋）

全部で37kgのごみを回収 ～海上保安署と松ヶ浦小学校が合同で～

6月4日、松ヶ浦小の児童24人が知覧地域四角場浜海岸で漂着ごみの分類調査を行いました。海岸清掃後ごみの分類を行うと、漂着した空き缶などには



▲海上保安署の職員に敬礼の仕方を習って、みんなで敬礼！

いろいろな外国の文字が記載されていました。海上保安署の方は「日本で捨てられたごみも国内外へ漂着します。ごみは絶対捨てないで」と話しました。

農業に関心深まる ～市内の中学生が職場体験～

額娃農業開発研修センターでは、市内の子どもたちに農業に関心を持ってもらおうと職場体験学習の受入を行いました。キャベツの収穫などの作業を体験した生徒は「両親や皆さんが楽しく仕事を



をしているのを見て、農業は大変だけど、とても楽しい仕事だと思いました」と感想を話しました。

▲5月12日～14日に額娃中学校3年生2人、6月1日～3日に青戸中学校3年生1人が同センターで職場体験学習を行いました。

水田オーナーが田植え体験 ～土里夢たかた（川辺町高田）～

6月21日、川辺町高田の田んぼで、農事組合法人“土里夢たかた”が主催する「水田オーナー」の田植えがありました。市内外からオーナーの家族や団体が参加。組



▲約30人が横一列に並び、両端から張ったヒモの印に沿って苗を植えていきました。

合員やJA職員の指導のもと、苗を植えていきました。オーナーは、年間を通して種まきから稲刈りなどの作業や大豆作りをその都度体験します。

海の生き物に大歓声！ ～今年も水産高校がやってきた～

6月22日、鹿児島水産高校と市内7小学校の水産学習会が石垣港で行われました。魚の基礎知識を養い漁業の魅力を知ってもらうため、高校生が丹精込めて



育てたヒラメの稚魚約1,000匹を、児童77人が岸壁からバケツで放流し、実際にエビやウニなどの海中生物を触る学習も行ないました。

▲歓声をあげ感触を楽しむ児童ら。学習後、「水産高校に行きたい人？」との問いに半数以上の児童が行きたいと答えました。